

第一回

問六 ―― 線⑦「すべて読まずに捨てた」のは、仙蔵にチヨへのどのような気持ちがあるからですか。「し気持ち。」に続くように、三十五字以上四十字以内で書きなさい。

正解〔※解答例省略〕

第一回

問八 ―― 線⑨「分厚い名著を読み始める時の真摯な気持ちで、千田仙蔵と書かれたカルテを捲った」とありますが、このときの瑠美の様子としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 仙蔵から話を聞いて心を動かされ、病状を把握するためのカルテや日誌ではあるが、それをきちんと読むことによって仙蔵の人生に向き合い、依頼されたことについても真剣に考えようとしている。
- 2 病室で仙蔵と話をする事で数奇な運命をたどる人間の一生に興味をもち、病状を記録したカルテをさらに深く読み込むことで人間や人体についての理解をいっそう深めようとしている。
- 3 幼い頃の仙蔵の話は戦争など現代からはかけ離れたものであっても到底理解ができないので、カルテを見直すことで今までに見落しがないかを確認し、仙蔵の心に寄り添おうとしている。
- 4 仙蔵から託された願いは看護学生の職分を越えていて実行してよいのか判断に迷うので、自分の決定を揺るぎないものにするために参考になるものは全て利用しようと考えている。

正解〔1〕

説明的文章の出題の意図

説明的文章の読解の中心は、文章の組み立てに気をつけながら読み、筆者の言いたいことをつかむということです。説明的文章という難しい印象があるかもしれませんが、筆者の言いたいことは基本的に1つです。その1つのことについて手を変え品を変えて説明しているだけです。筆者の主張の流れを考えながら読んでいきましょう。説明的文章を読み解く際には、具体と抽象、対比関係、くり返し表現、原因と結果などいくつか意識すべきポイントがあります。それらのポイントに気をつけながら、文章の組み立てを考えていくとよいでしょう。また、文章の要点を把握するための語彙力があるかどうか問うようにしています。

対比的な述べ方の理解を問う例としては、第三回□の問九、原因と結果の関係を問う例としては、第一回□の問三、問七などが挙げられます。

Ⅲ-01 国語

問題構成

国語力には、読解力や想像力、表現力などさまざまありますが、それをもう少し分かりやすく言うならば、それはすなわち、筆者の考えや登場人物の心情を正しく理解し、身の回りのことや社会に置き換えて考え、自分なりの意見や感想を持ち、それを相手にしっかり伝わるよう上手に表現するという力でしょう。本校の入試問題は、そうした力をバランスよく見ることを意図しており、問題形式についても様々です。言葉や表現の意味、接続詞や指示語、登場人物の心情や内容理解、また、ちがいや理由の説明、漢字の読み書き等、色々な形式の問題をとり交ぜて出題しています。そうしてそれらを通じて、文章を論理的に読解する力や登場人物の心情を正しく読み取る力、想像し思考する力、自分の言葉で正確に表現する力、また言葉の知識や漢字の読み書きなど、国語で必要とされるさまざまな力を幅広く見えています。

本校が例年、国語で出題する文章は、説明的文章が一編と、文学的文章が一編です。また、ここ数年は漢字を独立問題として出題することが多く、合計3題となっています。入試本文については、今の子ども達にぜひ読んでもらいたい、考えてもらいたいと思う読み応えのある文章を選ぶよう心がけていますので、過去問題などに取り組んだ際に興味を持った文章があれば、ぜひ本を手にとって豊かな読書経験につなげてほしいと願っています。

記述問題については、20～50字程度の短いものが数題と、70から100字程度の長い記述が1題という形を、例年取っています。長い記述問題は、本文の内容を要約するものもあれば、受験生自身の体験を想像も含めて、本文の内容と関わらせて書くものもあります。さらに、本文を踏まえて現代社会のあり様や自分のあり方にまで考えを広げる、思考力を問うような記述問題を出題する可能性もあります。

尚、入試本文については第三回□のように、随筆を出題することもあります。随筆は説明的文章、文学的文章両方の要素があるため、その文章の特徴に応じて出題されています。

文学的文章の出題の意図

文学的文章の読解の中心は登場人物の心情の変化にあります。登場人物の内面は、その表情や態度はもちろんのこと、周りの情景描写にも反映されていることが少なくありません。また、たとえを用いて心情を語ることもあります。つまり登場人物の言動や情景描写、それを表す比喩表現など、文中にある様々な手がかりをもとに、主人公の心情がどう変化したのかを読み解いていくことが大切です。文学的文章を読む際には、ただストーリーをたどるのではなく、登場人物の表情や仕草、態度、周囲の情景描写など一つひとつの表現にじっくり向き合いながら読むとよいでしょう。

たとえを用いて心情を語る例としては第一回□の問八、登場人物の態度から心情を読み取る例としては、第一回□の問六などが挙げられます。

Ⅲ-02 算 数

問題構成

例年と変わらず、第1回、第2回、第3回ともに大問5題出題します。**①**は計算問題と1行問題、**②**と**③**は1行問題より少し難易度の高い文章題、**④**と**⑤**は応用問題となっています。配点は計100点満点のうち、**①**が約30点、**②**と**③**はそれぞれ約10点、**④**と**⑤**はそれぞれ約20点となっています。これに加え、**②**と**③**のいずれかの中で1問、**④**と**⑤**のいずれかの中で1問、計2問の記述式の問題が入ります。記述式問題が入る大問については、配点が約5点加わります。

①では、計算問題と1行問題を合わせて約7題出題します。早く正確な計算力と基本的な文章題の処理能力が必要な問題が並んでいます。**①**は、受験生の基礎的な学力を確認する問題となっています。**②**、**③**は1行問題より少し難易度が高めの文章題を出題します。(1)や(2)などの前半の問題は、後半の問題を解くための誘導やヒントとなっていて、複数の設問に分けて出題されています。それらを元に法則や性質に気付けば完答できる問題となっています。**④**、**⑤**は応用問題です。自分で考え、自分で解決する力を持っているかどうかを確認する目的で出題しています。**②**、**③**と同様に細かい誘導やヒントを入れながら出題していきますので、これら一つひとつの設問の意図をしっかりと理解し、次の問題に利用することができるかどうか大きな鍵となっています。

①は基本問題ですので確実に得点を重ねてほしい部分です。**②**以降については、それぞれの前半の設問は問題内容を読み取ることができたかどうかを確認する問題であったり、その次の設問を考えるための準備や誘導であったりします。(1)から順に読み解いていけば後半の問題も決して難しくありませんので、後半の問題がなかなか解けない人は、前半の問題の誘導をもう一度読み解いてみましょう。そうすれば正解に近づくはずです。また、後半の問題を解く時間を確保するためにも、基本的な問題は速く正確に解く力が必要です。問題によっては、工夫しながら解けば簡単に答えを導きだせるものもあります。余計な時間や手間をかけすぎないように気をつけましょう。

記述式問題の解答は、図や表を用いても構いませんし、「→」などの記号を用いても結構です。答えが合っていないくても、途中までの考え方が合っているなど加点できる要素があれば部分点をつけていきます。少しでも構わないので、途中の式や考え方などを書くように心がけましょう。その際、問題設定にある数字を使って式を書きはじめることと、書いた途中の式が何を表している式なのかを明記することを意識しておくとう良いでしょう。考え方が書けるようになるためには、問題の解法を理由もわからずに丸暗記するような勉強法ではなく、それらの原理や意味をしっかりと理解することが重要です。また、解答の解法と自分の解法を比較したり、それ以外の解法を探したりするのもよいでしょう。問題の「答え」は1通りしかありませんが、「考え方」は1通りではありません。普段の練習でも、ただ問題を解いて、答えを見て丸つけして終わりではなく、「別解」など書いてある場合はその解法をしっかりと理解するようにしていくと、色々な解き方や考え方が身につけていきます。そうすると、自然に説明が書けるようにもなり、応用力もついてきます。算数は決して「結果」だけが重要なわけではありません。「過程」を大事にするように心がけることが成功への第一歩なのです。

第二回

問九 ―― 線⑩「大人の文学」・線⑫「児童文学」の特徴について説明した次の文の **I**・**II** にあてはまる語句を、それぞれ十五字以上二十字以内で書きなさい。

「大人の文学」は **I**。
「児童文学」は **II**。

正解 (※解答例省略)

第一回

問三 ―― 線①「二種類のゾウリムシは一つの水槽の中で共存をしたのである」とありますが、それはなぜですか。次の文の **A**・**B** にあてはまる言葉を **A** は十一字、**B** は六字で文中からそれぞれぬき出しなさい。
二種類のゾウリムシは **A** ので、**B** もなく共存することが可能だから。

正解 **A** 棲む場所とエサが異なる
B 競り合う必要

問七 ―― 線④「すべての生物はナンバー1なのである」とはどういうことですか。次の1～4からもっとも適当なものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 生存競争を勝ちぬいた結果、自分の能力や特性が他の生物の能力や特性よりも優位に立てるようになったということ。
- 2 他と競争する必要のない場を見つけることにより、自分の能力や特性が発揮され最も優位に立つようになるということ。
- 3 他の生物にはない、自分だけの能力や特性を身につけたのは失敗をくり返しながらも成長した結果であるということ。
- 4 生物は多様で、苦勞して探さなくても自分の最も秀でた能力や特性がそれぞれに必ず備わっているはずだということ。

正解 (2)

漢字の出題の意図

小学校での学習の範囲から出題しますが、日常会話の中で用いるような言葉だけでなく、さまざまな文章を読みこなし、考察するための語彙を持っているかどうか、言葉の知識を問うものでもあることも本校の意図するところです。漢字や語句問題なども結局は語彙、つまり言葉の知識と結びついています。目や耳から入ってくる情報で、意味のはっきりしないことばに出会ったら、わからないままにせず、調べる習慣をつけましょう。普段からことばを意識して生活してほしいと思います。例えば**第一回**の「育む」、**第二回**の「減益」「遺留」、**第三回**の「承服」などは、小学生の会話の中にはなかなか出てきませんが、上記の意図のもとに出題しています。